



2026 年度 年次総会 議事次第

一般社団法人 国際 P 2 M 学会

日 時 : 2026 年 4 月 19 日 (日) 13:15 ~ 13:45

開催形式: 対面 (千葉工業大学 津田沼キャンパス)

議事

学会会員数の報告

議長と総会開催要件の確認

第 1 号議案 2025 年度の活動報告

第 2 号議案 2025 年度の事業収支報告、決算報告書、監査報告書

第 3 号議案 2026 年度の基本方針と事業活動計画

第 4 号議案 2026 年度の事業収支計画

報告事項 1 2026 年度 委員などの委嘱

報告事項 2 学会表彰

学会会員数の報告

定款第5条会員の規程による分類に従い、2026年4月1日の学会会員数を報告する。

- | | | |
|---|------|-----------------------------|
| ① | 正会員 | 134 名 |
| ② | 法人会員 | 7 社 |
| ③ | 学生会員 | 15 名 |
| ④ | 名誉会員 | 4 名（学会に貢献した外国人研究者及び名誉会長・会員） |

以上

議長と総会開催要件の確認

1 開催と議長の選定

当学会（一般社団法人）の定款では「社員総会」（4章）について年に1回4月か5月の開催、必要がある場合に開催する（13条）、「総会の議長は、代表理事（会長）がこれに当たる」（16条）との規程があります。ただ今より、この規程にもとづきまして社員総会を開催いたします。

2 総会成立要件

社員総会は、正会員をもって構成する（第11条）。成立要件は「社員総会の決議は、法令又はこの定款に別段の定めがある場合を除き、総社員（会員）の議決権の10分の1以上を有する社員が出席し、出席した当該社員の議決権の過半数をもって行う。ただし、(1)社員及び会員の除名、(2)監事の解任、(3)定款の変更、(4)解散、(5)その他法令で定められた事項（議事録）の議決は、総社員の議決権の3分の2以上に当たる多数をもって行う。」と規定されている。

（第18条）

以下成立要件を確認する。

総社員数	134名（正会員134・学生会員16・法人会員7・名誉会員4）
出席者数	36名（委任状9名を含む）

以上の数を確認したので、総会の成立することを認めることにいたします。

3 総会の権限

社員総会は、次の事項について決議する（第12条）とある。関連議案がありますので、ご参照をお願いいたします。

- (1) 社員及び会員の除名
- (2) 理事及び監事の選任又は解任
- (3) 理事及び監事の報酬等の額
- (4) 貸借対照表及び損益計算書ならびにこれらの付属明細書の承認
- (5) 定款の変更
- (6) 解散及び残余財産の処分
- (7) その他社員総会で決議するものとして法令又は本定款で定められた事項

（議事録）

第19条 社員総会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

2 前項の議事録には、議長及び社員総会において選任された議事録署名人2名が、記名押印する。

第19条にしたがって、議事録署名人2名の選任を行う。

以上

第 1 号議案

【2025 年度の活動報告】

(事業期間：2025 年 4 月 1 日～2026 年 3 月 31 日)

(敬称略)

国際 P2M 学会創設 20 周年にあたり、通常の活動に加えて、以下の新しい活動を行った。(1) Vision2030 策定委員会を立ち上げ 2025 年度の活動計画で示した 2 つのミッションと 2 つビジョンを改良した。(2) 研究開発&社会実装マネジメント研究会と社会システムマネジメント研究会の 2 つの時限委員会を立ち上げた。(3) 日本プロジェクトマネジメント協会(PMAJ)と法人相互入会に関する取り決め(2025. 7. 18)を行い 2024 年度に立ち上げた博士人材と指導教員の醸成 SIG はじめ両組織の連携を強めた。以下、各活動について記述する。

1. 運営委員会を中心にした 4 つの委員会の連携活動

春秋の研究発表大会、論文誌発行、P 2 M マガジン発行、セミナーの 4 活動を行う委員会と連携して、月 1 回の頻度で合計 1 1 回の会合を行い、学会が目指すビジョンの達成に向けて事業を進めた。

2. 対外連携活動

2. 1 日本プロジェクトマネジメント協会(PMAJ)と法人相互入会

国際 P2M 学会と日本プロジェクトマネジメント協会両組織の連携強化のため、それぞれの HP で特別会員、法人会員名簿に記載することとした。

2. 2 博士人材と指導教員の醸成 SIG

SIG 活動に対し学会として実質的な連携支援を行った。3 回の SIG 全体会合に出席するとともに、個別で博士学位取得者の査読論文作成指導指南に対応した。具体的な活動は以下のとおりである。

- ① P2M 標準ガイドブック改訂第 4 版の共通理解
- ② マネジメント系博士ロールモデル収集への協力
- ③ 博士醸成スキーム(仕組み)の実装支援(博士学位挑戦者への実質的な論文作成指導やメンタリングなど)
- ④ PMAJ 主催 PM シンポジウム 2 0 2 5 で、博士醸成に関する講演を実施、ブースでのパネル出展協力
- ⑤ 内閣府ほか各種高等教育機関が実施する博士人材育成情報の収集共有と比較、それぞれの活動との連携をはかった。

2. 3 その他の連携活動

- ・PM シンポジウムで「P2M 社会人博士取得のススメ」の講演(久保)
- ・内閣府 SIP(戦略イノベーションプログラム)主催 社会人博士応援セミナーで「博士人材とその指導教員を醸成する仕組みづくり」を講演(白井)

3. VISION 2030 策定委員会

亀山会長主導でメール及び遠隔会議によって複数回にわたって議論を進め、5 個のミッション、5 個のビジョン（目指すべき目標）、10 個のアクションプラン（実現のための具体的手段）から構成される「創設 20 周年記念の国際 P2M 学会 Vision2030」を策定した。

4. 研究発表大会の企画と実行

4. 1 第 39 回春季研究発表大会

計画通り以下の要領で開催し、42 名の参加があり 14 件の研究発表が行われた。意見交換会には 26 名が参加した。

開催日 : 2025 年 4 月 19 日（土）
開催校 : 東京都市大学 横浜キャンパス
開催形式 : 会場と配信のハイブリッド
テーマ : サステナビリティ実現に向けたイノベーションと P2M

基調講演 1 : 「サステナビリティを実現するイノベーションのための
シンセシスアプローチ」
東京大学 大学院工学系研究科 梅田靖 教授

基調講演 2 : 「サステナブルイノベーションの鍵 — アブダクションと共感」
東京都立大学 システムデザイン学部 下村芳樹 教授

パネル討論 : 「サステナビリティ実現に向けたイノベーションを促進するには、
何か必要か？」

パネリスト : 東京大学 梅田靖 教授
東京都立大学 下村芳樹 教授
アイロボットジャパン合同会社 挽野元 代表執行役員社長
環境再生保全機構 (ERCA) 亀山秀雄
社会実装支援コーディネーター

実行委員長 : 岡田 公治（東京都市大学 教授）
実行副委員長 : 佐藤 真久（東京都市大学 教授）
大会企画委員会委員長 : 小笠原 秀人（千葉工業大学 教授）
大会企画委員会副委員長 : 新谷 幸弘（千葉工業大学 教授）
予稿集編集責任者 : 中野 健太郎（早稲田大学環境総合研究センター主任研究員）

4. 2 第 40 回秋季研究発表大会

以下の要領で開催した。今回はインターネット配信を行わない形式で開催し、研究発表大会 52 名、意見交換会に 38 名の参加があった。

日時 : 2025 年 11 月 2 日（日）
開催校 : 千葉工業大学 津田沼キャンパス
テーマ : 国際 P2M 学会創立 20 周年記念

記念講演：「高臨場感オーディオ技術によるサウンドスケープによる再生：
音を使った観光誘致プロジェクト」

(千葉工業大学 未来変革科学部 学部長 関研一教授)

基調講演：「20周年にあたって」(名誉会長 吉田邦夫氏 (東京大学 名誉教授))

国際 P2M 学会 Vision2030 策定委員会報告 (亀山秀雄 国際 P2M 学会会長ほか)

ラウンドテーブル

テーマ：マネジメントの専門職人材の育成

コーディネータ：新谷幸弘 (千葉工業大学) / 小笠原秀人 (千葉工業大学)

発表者：加藤亨 (PMAJ 理事長)

関宣昭 (特定非営利活動法人 里山を考える会 代表)

大島圭子 (独立行政法人 環境再生保全機構 博士)

岡田久典 (早稲田大学 理工学術院 環境総合研究センター
上級研究員/博士)

大会実行委員長 : 新谷 幸弘 (千葉工業大学 教授)

大会実行副委員長 : 下田 篤 (千葉工業大学 教授)

企画委員長 : 小笠原 秀人 (千葉工業大学 教授)

企画副委員長 : 新谷 幸弘 (千葉工業大学 教授)

岡田 公治 (東京都市大学 教授)

予稿集編集責任者 : 加藤 智之

5. 国際 P 2 M 学会誌の編集と発行

以下の 2 号を発刊した。掲載論文件数は 2 号合わせて 12 件であった。

学会誌 Vol.19, No.2 の発行 2025 年 6 月 26 日 発行

学会誌 Vol.20, No.1 の発行 2026 年 1 月 11 日 発行

6. P 2 M マガジンの企画と発行

以下の 2 号を発刊した。

23 号「2025 年度 春季研究発表大会特集号」(2025 年 6 月 24 日発行)

24 号「国際 P2M 学会創立 20 周年記念 ～「効く知」を「届く知」へ～」

(2026 年 2 月 19 日発行)

7. セミナーの企画と実行

P2M 知識体系の普及と会員増加の両方を狙い、過去のセミナーコンテンツを一般公開用と学会員専用に分類した。本期間は、新たに以下のセミナー動画を公開した。

(1) セミナー番号 1501 【一般公開】

『P2M 社会人博士取得のススメ～ 実務経験を活かし、キャリアを拓く ～』

講師 久保 裕史

※PMAJ のサイトにアップしたコンテンツの URL をリンク

(2) セミナー番号 1502 【一般公開】

『P2M 標準ガイドブック改訂 4 版と一緒に勉強しませんか！？～P2M を学ぶ
SIG の活動紹介と P2M 概説～』

講師 PMAJ 理事長 加藤 亨

※PMAJ のサイトにアップしたコンテンツの URL をリンク

(3) セミナー番号 1503 【一般公開】

PM シンポジウム スポンサー講演資料

『実践的 プログラムマネジメント経営～価値共創時代のイノベティブ企
業への秘策～』

講師 PMAJ 理事長 加藤 亨

※PMAJ のサイトにアップしたコンテンツの URL をリンク

8. 表彰活動

学会への功績を讃えて下記 8 名を表彰した。

2024 年度表彰者

学会賞 山本秀男 (中央大学)

学会活動功労賞 谷口邦彦

2025 年度研究発表大会表彰者

発表奨励賞 荒川正頼 (千葉工業大学)

発表奨励賞 日出間建 (東京都市大学)

発表奨励賞 菊地剛正 (千葉商科大学)

発表奨励賞 森田晃世 (慶應義塾大学 大学院)

発表奨励賞 大島圭子 (独立行政法人 環境再生保全機構)

発表奨励賞 永井亮 (独立行政法人 環境再生保全機構)

9. 時限委員会の立ち上げ

9. 1 研究開発&社会実装マネジメント研究会

2025 年 7 月 8 日に研究会設置申請書提出し、以下の活動を行った。

【第一回研究会】：2025 年 10 月 11 日 (土) 16:00～18:00 に ZOOM 会議で以下の議論を行った。

- ・ 研究会のビジョンと目的の理解。研究会のロジックモデル提示
- ・ 調査報告「研究成果の社会実装評価における次世代指標 TRL と SRL と ARL の役割と展望」を作成提出
- ・ 話題提供：2 名
 - ① 中野 (早大) 地域実装研究での TRL/SRL 評価「国際 P2M 学会誌 2025 年 19 巻 2 号掲載論文」紹介
 - ② 亀山 (ERCA) 環境研究総合推進費における TRL/ARL 評価事例紹介

【第二回研究会】：11月2日秋季大会午前の研究発表会で研究会主催の発表セッションで2テーマの発表を行った。

【対外報告】

(1) 2026年2月5日発行「化学工学」2月号解説記事

亀山秀雄、吉田邦夫「-P2MとAIとの統合運用の必要性-Vision2036実現に向けた化学工学の新展開(その2)」第90巻、第2号(pp.98-104)

(2) 2026年2月19日発行P2Mマガジン24号掲載

亀山秀雄「R&D・社会実装マネジメント研究会」2026年24巻 pp.35-38

9.2 社会システムマネジメント研究会

今年度設置が承認されたので、「社会システムマネジメント」をテーマに、各種社会課題解決事業の実装マネジメント手法を包括的に理論と実際から研究し、千葉工業大学での秋季大会報告会で特別セッションを開催した。これらは、2026年度の秋季大会及びASCON-IEEChE2026で発表するテーマの基盤となるものである。

10. 学会業務の平準化とセキュリティ強化

月1回定例開催した運営委員会で情報共有を図ることによって、担当者のインセンティブと責任のバランスが取れるように配慮した。セキュリティ強化に関して、個人情報保護規程を改訂し学会HPのhttps化を実施した。

以上

第 2 号議案

2025 年度の事業収支報告

1. 2025 年度の事業収支報告について

本議案では年度事業収支の計画・実績及び差異を説明します。ご審議の上、承認をお願いします。2025 年度も前年度に引き続き財政基盤の強化に向けた諸施策を実施しました。主に研究発表大会の活性化と、事務業務の効率化等によるコストダウンにより財務基盤を保ち、昨年度に引き続き「繰越金」を確保できました。

2. 会員数の推移説明

表 1 に、事業収入のベースとなる会員数の計画と実績の差異を示します。法人会員数は 1 社増加しましたが、正会員・学生会員ともに減少しました。財政健全化のためには、正会員と法人会員の増加に向けた施策を行う必要があります。

表 1 会員数の推移 (実績 B:2026 年 2 月末時点)

会員区分	2026年3月末目標 (A)	2026年2月28日実績 (B)	差異 (B)-(A)
正会員	160	146	-14
学生会員	25	17	-8
法人会員*	7	7	0

① 正会員数

正会員の高齢化ならびに学会活動と通常業務との関係性が薄れたという理由による退会者が増え、前年よりも 5 名減少しました。会員数の減少が顕著です。新たな施策によって会員の増強に努めていく必要があります。

② 学生会員数

大学卒業等の理由で退会する学生数は例年通りでしたが、新規加入の学生会員は 2 名に留まったため、通算すると 6 名減少になりました。将来学会を牽引する若手会員を維持するためにも、学生会員の増強も必要です。

③ 法人会員数

本年度から特定非営利法人日本プロジェクトマネジメント協会(PMAJ)と法人相互入会に関する取り決め(2025.7.18)を行い、法人会員が 1 社増加しました。法人の要望に合致した活動が入会のきっかけになりました。

3. 事業収入

表 2 に 2025 年度の計画と実績の差異を示します。会員数増加が進まなかったこと、学会誌掲載論文が減少したこと、の理由から計画に対して低い収入となりました。

秋季大会は参加者が想定通りで計画に対して 61,000 円の増益を達成できました。

表 2 2025 年度事業収入計画と実績 (単位: 円)

事業収入項目	収入計画	実績	予実差異
1. 年会費	1,890,000	1,627,000	-263,000
2. 春季大会開催事業	545,000	452,000	-93,000
3. 秋季大会開催事業	545,000	606,000	61,000
4. 学会誌発行事業 a	660,000	390,000	-270,000
当該年度収入合計 (あ)	3,640,000	3,075,000	-565,000
5. 前年度繰越し金	8,537,293	8,537,293	0
利息		799	799
収入の部 総計 (A)	12,177,293	11,613,092	-564,201

a : Vol. 19 No. 1 & No. 2, Vol. 20 No. 1: 論文掲載料 30,000円

4. 事業支出

表 3 に 2025 年度の事業支出の計画・実績差異の集計を示します。前年度に引き続き、春季および秋季発表大会事業では正会員の講演などに対する謝金を廃止しました。

表 3 2025 年度事業支出計画と実績 (単位: 円)

事業収入項目	当初計画	実績値	予実差異
1. 学会組織運営費	700,000	505,984	-194,016
2. 学会事務所設置経費	650,000	570,434	-79,566
3. 春季大会開催費	394,000	419,920	25,920
4. 秋季大会開催費	464,000	437,030	-26,970
5. 学会誌発行費用	265,000	259,000	-6,000
6. マガジン発行費用	302,000	185,000	-117,000
7. セミナー開催費用	100,000	16,000	-84,000
8. 表彰感謝状制度関係費	40,000	8,974	-31,026
9. 研究・研修・普及資料作成費	60,000	0	-60,000
10. 会員サービス活動費	200,000	0	-200,000
11. 20周年記念イベント等費用	300,000	0	-300,000
12. 一般社団 税	90,000	81,388	-8,612
13. 予備・手当	75,000	0	-75,000
当該年度支出合計 (い)	3,640,000	2,483,730	-1,156,270

それらの施策によって、2025 年度の支出は表 2 に示した 4 つの事業収入に見合う支出におさえることができました。当該年度の収支 (表 2(あ)実績値 - 表 3(い)の実績値) は、591,270 円の黒字となり、繰越し金を使わずに運営することができました。

当学会会計責任者が作成した「国際 P 2 M 学会 2025 年度決算書」として

(1) 損益計算書と (2) 貸借対照表を別紙に添付します。

本決算書は学会監事の監査により承認済です。

会員のご支援に感謝し、引き続き一層のご支援をお願いいたします。

以上


第 2 号議案 (別紙添付)

国際 P 2 M 学会 2025 年度 決算報告書			報告版
(但し、2025年3月1日～2026年2月28日まで)			
(1) 損益計算書			
		(単位：円)	
収 入		支 出	
前期繰越	8,537,293	事務運営費	505,984
年会費・入会金	1,627,000	業務委託費 (国際文献社)	570,434
春季大会	452,000	春季大会	419,920
秋季大会	606,000	秋季大会	437,030
論文掲載料	390,000	論文 (査読・編集等)	259,000
資格試験 受験料・更新料	0	マガジン発行費用	185,000
寄付		セミナー関連費用	16,000
		表彰・感謝状関連	8,974
		研究・研修・普及資料	0
		会員サービス関連	0
前払い 年会費・入会金			
前払い 次年度 春季大会参加費	13,500	法人都民税他	81,388
		その他	
		小 計	2,483,730
利息他	799	総合収支	9,142,862
合 計	11,626,592	合 計	11,626,592
(2) 貸借対照表			
		2026年2月28日	(単位：円)
科 目	金 額	科 目	金 額
I 資産の部		II 負債の部	
1. 流動資産		1. 流動負債	
現金預金	9,175,885	年会費前受金	
普通預金 (SMBC飯田橋支店)	325,052	春季大会 参加費前受金	49,500
郵便振替預金 (文京関口一局)	8,850,833	学会誌文掲載料 前受金	
現金			
		流動負債合計	49,500
		1. 固定負債	
流動資産合計	9,175,885	固定負債合計	0
		負債合計	49,500
1. 固定資産		III 正味財産の部	
固定資産合計	0	前期繰越正味財産	8,537,293
		当期正味財産増加額 (減少額)	589,092
		正味財産合計 (正味負債)	9,126,385
資産合計	9,175,885	負債及び正味財産合計	9,175,885

監査報告書

国際P2M学会の2025年度の決算報告書を詳細監査した結果、
すべて適正に処理されており、正確であることを確認しましたので
報告いたします。

令和8年（2026年）3月29日

監事 石川 千尋 

第3号議案

2026年4月19日

【2026年度の基本方針と活動計画】(案)

(事業期間：2026年4月1日～2027年3月31日)

1. 基本方針

国際P2M学会の5のミッション

- ①本学会は、オーナーの視点に立って、経営システムと技術システムを統合するプログラムマネジメントの知識体系の深化と実践研究を推進する事により共存共栄の持続可能な社会の構築に貢献する。
- ②本学会は、組織の全体使命のもとで複数のプロジェクトを有機的にマネジメントし、創造的統合マネジメントスキル手法を活用して、構想（スキーム）・構築（システム）・運営（サービス）が連結した（3Sモデル）構成からなるプログラムマネジメントの知識体系を社会に提供する。
- ③本学会は、マネジメント分野での活動を行っている社会人に対して、研究発表、論文発表の場を提供し、博士号取得可能な教育機関を斡旋して、社会人の博士号取得を支援する環境を構築する。
- ④本学会は、実務と理論を架橋するために、現実の問題を理工学的な視点と人文社会科学的な視点の両面にとらえ、イノベーションをもたらす新たな知識体系を構築する。
- ⑤本学会は、不確実な環境の社会で必要とされるオーナーの視点を持つ人材を育成し、現在の活動だけでなく、将来の活動も含めて、プログラムマネジメントが社会における様々な場面で有効性を発揮する知識体系を構築する。

5つのビジョン（目指すべき姿）

日本の精神文化を礎とし、顧客価値を追求するP2Mを、国内外において社会変革を推進するための共通言語および実践フレームワークとして確立し、多様なステークホルダーとの共創を通じて、持続可能な社会の実現に貢献する。

1. グローバルスタンダードとしてのP2Mの確立:

- 目標：2030年までに、P2Mが国際的なプロジェクトマネジメントの分野において認知され、活用されるための基盤を確立する。
- 具体的な取り組み：
 - 国際的なプロジェクトマネジメント関連団体との連携強化（PMI、IPMAなど）。
 - 英語をはじめとする多言語でのP2M関連情報（書籍、論文、研修プログラムなど）の拡充。
 - 海外の大学や研究機関との共同研究・教育プログラムの推進。
 - 国際会議やセミナーでのP2Mの積極的な発信。

2. 社会変革マネジメントへのP2Mの浸透:

- 目標：2030年までに、SDGs達成、カーボンニュートラル実現、地域活性化、防災・減災などの社会課題解決に向けたプロジェクトやプログラムにおいて、P2Mが広く活用される状態を目指す。
- 具体的な取り組み：
 - 社会変革をテーマとしたP2M事例の研究・収集・発信。
 - 政府、自治体、NPOなどへのP2M導入支援プログラムの開発と提供。
 - 社会変革に特化したP2Mのガイドラインやツールキットの開発。
 - 社会課題解決に取り組む人材育成のためのP2M研修プログラムの提

アクションプラン	テーマ	具体的手段（内容）
		野での研究成果の社会実装を支援するため、P2M 知識体系を研究組織や予算管理組織（FA）に普及展開する。
AP4	新知識体系の共創	最新の DX や AI や地域課題や社会課題解決のための資金調達等を含む新知識体系を関連組織と連携して共創する。
AP5	人材育成	政府の社会人博士 2 万人育成計画に基づいて、社会人博士・修士人材の育成、各種 P2M 教材作成、オンライン講義配信等を行う。
AP6	基盤強化	P2M 普及促進のため、公的資金獲得を通じ、学会財政基盤と専従事務職員を確保する。
AP7	会員拡大	社会人・学生会員や協賛企業数の増加と他の組織との連携に繋がる、魅力有る P2M 宣伝企画を推進する。
AP8	広報活動	会員限定もしくは一般公開の P2M の動画配信やセミナー等を行い、社会人の学会参加を促進する。
AP9	英語発信	P2M マガジンの掲載記事の英文配信や学会論文誌の英語論文掲載を増やして P2M 知識の国際発信を推進する。
AP10	体制構築	運営委員会を運転席とし、大会実行・論文査読・マガジン編集・セミナー企画の 4 部会を 4 輪にして国際 P2M 学会を前進させて、研究会活動を牽引した強力な運営体制を確立する。

2. 活動計画

5 つのビジョン実現のためのアクションプランに基づいて、学会創設 20 周年記念のため、2026 年度は以下の活動を行う。

2. 1 運営委員会を中心にした 4 つの委員会の連携活動

研究発表大会の企画、論文誌の編集、P2M マガジンの企画、セミナー企画の 4 つの活動を行う委員会と 2 つの研究会と連携して、月 1 回の会合を行い、学会が目指すビジョンの達成に向けて前進する。

2. 2 PMAJ の博士人材と指導教員の醸成 SIG への連携活動

PMAJ の SIG 活動への連携を深めるとともに、マネジメント教育を行っている高等教育機関と連携し、マネジメント力養成を必要としている企業・機関とも連携して、国のリスクリテラシー教育支援を活用し、産学官連携でプログラムマネジメント教育の強化と高度専門職職員としての博士号取得に繋がる支援活動を行う。

主査 白井久美子

2. 3 研究発表大会の企画と実行

(1) 第 41 回春季研究発表大会

開催日：2026 年 4 月 19 日（日）

開催校：千葉工業大学

開催形式：対面形式

基調講演：高橋真木子氏

（金沢工業大学 大学院イノベーションマネジメント研究科 教授）

ラウンドテーブル：国際 P2M 学会のミッションとビジョンの深耕

(1) 国際 P2M 学会のミッションとビジョンの説明

- (2) 研究開発&社会実装マネジメント研究会からの報告
- (3) 社会システムマネジメント研究会からの報告
- (4) PMAJ の博士人材と指導教員の醸成 SIG からの報告
- (5) 上記の説明・報告をベースにした議論

実行委員長：新谷幸弘（千葉工業大学）

実行副委員長：下田篤（千葉工業大学）

大会企画委員会委員長：小笠原秀人（千葉工業大学）

大会企画委員会副委員長：岡田公治（東京都市大学）、新谷幸弘（千葉工業大学）

予稿集編集長：中野健太郎（早稲田大学）

予稿集編集委員：加藤智之（K04Lab（越島研究室））、長島匠（大阪キリスト教短期大学）

（2）第42回秋季研究発表大会企画案

開催日：2026年11月8日（日）

開催校：早稲田大学

開催形式：対面形式

テーマ：国際 P2M 学会のミッションとビジョンの深耕 Part2

パネル討論：国際 P2M 学会のミッションとビジョンの深耕 Part 2

モデレーター 岡田久典（予定）

パネラー P2M のユーザー(官庁、企業)、専門家団体、研究者、
P2M 専門家養成する新設予定大学院大学学長など

実行委員長：女性を中心に人選する

実行副委員長：早稲田大学から

大会企画委員会委員長：小笠原秀人（千葉工業大学）

大会企画委員会副委員長：岡田公治（東京都市大学）、新谷幸弘（千葉工業大学）

予稿集編集長：加藤智之（K04Lab（越島研究室））

予稿集編集委員：中野健太郎（早稲田大学）、長島匠（大阪キリスト教短期大学）

2. 4 国際 P 2 M 学会誌の編集と発行

春季研究発表大会および秋季研究発表大会の投稿論文の中から学術的に優れた論文を選定して査読を行い、2026年9月に21巻1号、2027年3月に21巻2号を発行する。

編集委員会：武富為嗣（委員長）、加藤智之、

中野健太郎（21巻1号の編集責任者）、長島匠（大阪キリスト教短期大学）

論文査読部会：加藤智之（部会長）

2. 5 P 2 M マガジンの企画と発行

・ P 2 M マガジン編集委員会：吉川 厚（委員長）、李洸昊（副委員長）、

亀山秀雄（編集委員）他に2名編集委員を増やす）

本マガジンを学会外部からの情報も取り入れるプラットフォームと位置づけ、春季大会と秋季大会のテーマと関連した特集を組む他、学会創設 20 周年記念特集号を 2027 年に発行する。

25号特集テーマ

（6月10日発行予定）

第41回研究発表春季大会のテーマで午後の発表や討論内容を紹介

記事内容：ラウンドテーブルで講演される方に原稿依頼して掲載すると共に、各テーマのはじめにラウンドテーブルの司会をされた方に議論のまとめの報告記事を書いて頂く。

25号以降(予定)

2027 年 1 月 26 号特集 秋季大会のテーマに関連した特集
2027 年 3 月 27 号特集 創設 20 周年記念特集号
P2M の海外紹介用に今までの P2M マガジンの記事から選択して英語版 P2M マガジンダイ
ジェスト版を作成し、オンラインで海外に紹介する。

2. 6 セミナーの企画と実行

現在までの委員会が従事していた「セミナー動画」の制作・発信を引き継ぎ、来年度は以下のテーマについて、①および②タイプの「セミナー動画」の企画・制作・発信に積極的に取り組んでいきたい。 委員長 玉木欽也、副委員長 岡田久典

1. 2 タイプのセミナー動画

①【会員限定】向けにクローズ 動画

②【一般公開：You Tube】会員拡大の場合は、公開の一部の資料：プロモーション用 申請書の企画時に活用

2. 「セミナー動画」のテーマ(案)

(1) 亀山先生「R&D・社会実装マネジメント研究会」の立上げ等の新しいトピック

・【一般公開：You Tube】年会後 4 月→5 月制作・発信

・【会員限定】秋季発表大会における発表内容

(2) 岡田先生「社会システムマネジメント研究会」の立上げ等の新しいトピック

・【会員限定＋一部公開も含める】6 月～制作予定

・【一般公開：You Tube】12 月頃 PMAJ 一般講演：国際 P2M ヘリンク

(3) 白井副会長「博士醸成 SIG」の候補者募集、指導者のプロモーションを動画にしてい ただく

・【一般公開：You Tube】12 月頃 PMAJ 一般講演：国際 P2M ヘリンク

(4) 岡田先生

「P2M と共に歩んだ職業人生」

・【一般公開：You Tube】12 月頃 PMAJ 一般講演：国際 P2M ヘリンク

(5) 亀山先生

・【一般公開：You Tube】化学工学会会員向け 「バリュークリエーション・エンジニアリ
ング」 8・9 月頃

2. 7 表彰活動

表彰規程に基づき表彰委員会を組織して、会員から、学会賞、研究奨励賞、教育功
労賞、学会活動功労賞の表彰者の推薦を募集し、それらを元に検討、審議して、各受
賞者を決定し、表彰する。

2. 8 ASCON-IEEChE2026 共催

2026 年 10 月 16 日 (金)～18 日 (日)、19 日 (月) はテクニカルツアー。学会創設 20
周年を記念して、17 日午後、18 日午前に P2M セッションを行う。運営委員：亀山、山本、
久保、李の 4 名が共催側の国内委員として企画運営に当たる。参加動員目標：20 名
P2M セッションのテーマ

(J) Value Creation Management through P2M-Based Social Implementation

1. International Association of P2M 20th Anniversary Commemorative

Lecture: Honorary Chairman Kunio Yoshida

2. New Developments in Value Creation Engineering through the Fusion of Chemical Engineering and P2M

3. R&D and Social Implementation Management

4. Social Systems Management
5. Environmental Research Support Management
6. Management of Human Resource Development for Professional Doctoral Candidates
7. Others

10月17日(土)13時から吉田邦夫名誉会長による記念講演 60分

「A Grand Transformation: From ASCON to ASCON-IEEChE, and Further into ASCON-Value-Creation CheE: Towards a Sustainable Society by Adopting P2M, AI, and Quantum Computing in an Age of Population Decline」

日本語

『人口減少時代における持続可能な社会に向けて：P2M・AI・量子コンピューティングの導入と、ASCON から ASCON-IEEChE、ASCON-価値創造化学工学への大転換』

発表目標：	研究開発&社会実装マネジメント研究会	4件
	社会システムマネジメント研究会	4件
	社会人博士人材育成 SIG	4件
	P2M 理論と実際関係	7件
	合計	20件

投稿した論文は、修正して査読希望論文として学会の論文誌に投稿して査読審査を受けられる。

2. 9 研究開発&社会実装マネジメント研究会

昨年度に引き続き、「価値指標マネジメント」をテーマに研究開発マネジメントと成果の社会実装マネジメントにおける評価の指標と評価の仕方について、理論と実際の状況を研究し、報告会を秋季大会並びに ASCON-IEEChE2026 で発表する。2027年3月に2年間の活動をまとめた報告会を開催し、「価値指標マネジメントの手引き」にまとめて学会に提出する。

主査 亀山秀雄

2. 10 社会システムマネジメント研究会

昨年度に引き続き、「社会システムマネジメント」をテーマに、各種社会課題解決事業の実装マネジメント手法を包括的に理論と実際から研究し、報告会を秋季大会並びに可能であれば ASCON-IEEChE2026 で開催する。2027年1月に2年間の活動をまとめた報告会を開催し、「社会システムマネジメント研究会報告」にまとめて学会に提出する。

主査 岡田久典

3. 学会業務の平準化

運営委員会で情報を共有し、各担当業務の稼働の平準化をはかり、担当者のインセンティブと責任のバランスが取れるように配慮する。

以上

第 4 号議案

2026 年度の事業収支計画

2026年活動計画を実行するための事業収支計画を提案する。

2026年度の事業期間は2026年4月1日～2027年3月31日だが、過去の事業収支計画の期間に準じ、予算計画は2026年3月1日～2027年2月28日とする。

1. 会員数予測と前提

前年度会員数を基礎に本年度の会員数の目標を下記に設定する。目標実現に向けた会員のご協力とご尽力をお願いする。

表 1 2026 年度会員目標

会員区分	2026 年 3 月末実績	2027 年 3 月末会員目標
正会員	146 名	150 名
学生会員	17 名	20 名
法人会員*	7 社	8 社
合計	163 名+7 社	170 名+8 社

2. 2026年度事業収支計画

2026年度の事業収入は、会員数ならびに春季・秋季大会参加者数の予測等を前提に事業収入を計画した。表 2 は当該年度の事業収入に前期繰越金を参入したものである。

表 2 2026年度の事業収入計画

(単位 円)

事業収入項目	収入計画	目標概要
1. 年会費	1,680,000	170名(正会員150、学生20、法人8) (注1)
2. 春季大会開催事業	581,000	55名 (正会員45、学生5、午後のみ5) (注2)
3. 秋季大会開催事業	740,000	50名 (正会員45、学生5、午後のみ5、非会員10) (注2)
4. 学会誌発行事業	800,000	16編 (Vol.20 No.2 : 8編、Vol.21 No.1 : 8編) (注3)
当該年度収入合計 (あ)	3,801,000	
5. 前年度繰越し金	9,126,385	
利息		
収入の部 総計 (A)	12,927,385	

(注1) 年会費納入率：法人年会費100% (但し相互加入法人は0円)
正会員90%、学生80%を想定

(注2) 参加費：正会員9,000円、学生5,000円、午後のみ3,000円

(注3) 学会誌掲載料：50,000円

表 3 に2026年度活動計画を反映した支出計画を示す。表 1 の会員数を前提とした表 2 の収入計画を実現し、表 3 の支出計画の範囲で効果が十分期待できる活動に注力していく予定である。なお、支出の上限は、2023年度第3回理事会・評議委員会 (2023年

2026 年度年次総会資料

11月12日開催) 議案5で了承された「予算支出計画は当該年度の収入計画と実績に対応したものを作るべき」の考え方にもとづき、支出の上限額を収入計画380万円の110% (418万円) とする。

表 3 2026 年度支出計画 (単位 円)

事業収入項目	支出計画	概要
1.学会組織運営費	700,000	理事会等運営、会計業務、メールアドレス管理、備品購入等
2.学会事務所設置経費	650,000	国際文献社へ委託(学会事務所設置、会員管理、年会費納入管理等)
3.春季大会開催費	454,000	予稿集編集、講演謝礼、HP運用、大会出納管理等
4.秋季大会開催費	599,000	会場費、予稿集編集、講演謝礼、HP運用、大会出納管理等
5.学会誌発行費用	229,000	論文査読、論文誌編集、公開に係る事務費
6.マガジン発行費用	270,000	原稿料、編集作業、公開に係る事務費、会議費等の費用
7.セミナー開催費用	100,000	Youtube配信に使う教材作成、講師謝礼等
8.表彰感謝状制度関係費	20,000	表彰状・感謝状の作成や記念品・副賞等の費用
9.研究・研修・普及資料作成費	60,000	新研究会の支援等の費用
10.会員サービス活動費	60,000	データバックアップ用メモリとデータ移行費用
11.一般社団 税	90,000	一般社団に関わる法務局や東京都に関する費用や税
12.予備・手当	100,000	大会参加者数変動等への引当準備
当該年度支出合計 (い)	3,332,000	支出上限を当該年度収入計画の1.1倍 (418万円) とする
次年度繰越し金	9,126,385	
支出の部 総計 (B)	12,458,385	

表 4 に事業収支計画を示す。

表 4 2026年度事業収支計画 (単位 円)

項目	金額 (円)
収入合計 表2 (あ)	3,801,000
支出合計 表3 (い)	3,332,000
収支 (あ) - (い)	469,000
前年度繰越し金	9,126,385
次年度繰越し金	9,595,385

上記の収支計画の承認をお願いいたします。

以上

2026 年度 委員などの委嘱（報告事項）

1. 大会企画委員長、同副委員長

2026年4月20日付け 大会企画委員長 小笠原秀人（再任）

任期 2026年4月20日～2027年度春季大会

2026年4月20日付け 大会企画副委員長 岡田公治（再任）

任期 2026年4月20日～2027年度春季大会

2026年4月20日付け 大会企画副委員長 新谷幸弘（再任）

任期 2026年4月20日～2027年度春季大会

2. 論文誌編集委員長

2026年4月20日付け P2M論文誌編集委員長 武富為嗣（再任）

任期 2026年4月20日～2027年度総会

3. 予稿集編集および論文誌編集責任者

2026年4月20日付け 春季大会予稿集及び論文編集責任者 中野健太郎（再任）

任期 2026年4月20日～2027年度春季大会

2026年4月20日付け 秋季大会予稿集及び論文編集責任者 加藤智之（再任）

任期 2026年4月20日～2027年度春季大会

4. P2Mマガジン編集委員長、同副委員長

2026年4月1日付け P2Mマガジン編集委員長 吉川厚（再任）

任期 2026年4月20日～2027年度総会

2026年4月1日付け P2Mマガジン編集副委員長 李洸昊（再任）

任期 2026年4月20日～2027年度総会

5. セミナー委員長、同副委員長

2026年4月20日付け セミナー委員長 玉木欽也（再任）

任期 2026年4月20日～2027年度総会

2026年4月20日付け セミナー副委員長 岡田久典（再任）

任期 2026年4月20日～2027年度総会

以上

2025 年度表彰者（報告事項）

表彰委員会

国際 P 2 M 学会の 2025 年度表彰者を、表彰委員会（委員長、副委員長、委員 計 6 名）が表彰規程に則り、正会員及び名誉会員からの推薦書をもとに検討した結果、以下の通り決定したので報告致します。

研究奨励賞 ： 中野健太郎 氏

教育功労賞 ： 玉木 欽也 氏

学会活動功労賞 ： 沖浦 文彦 氏

以上